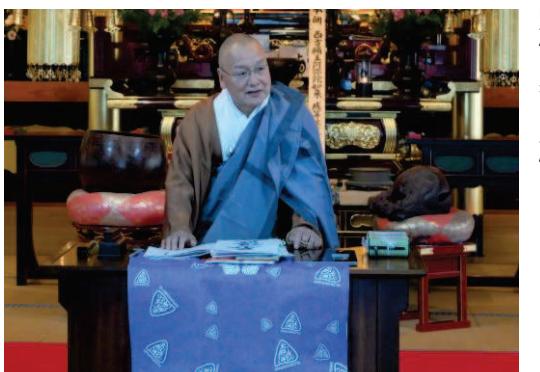




# 源昌寺通信 木漏れ日 第5号

発行元：浄土宗 源昌寺  
令和6年12月発行

## 千年の善行にも勝る 十夜法要



令和6年12月6日（金）から8日（日）まで3日間、3席で十夜法要を執り行いました。3日間ともいい天気に恵まれ、たくさんの方に参詣を頂きました。この一年の締めくくり季節に仏さまの教えを聴き、もう一度お念仏の教えを皆さんと一緒に再確認いたしました。お話を聴き、自分を見つめる。また見つめることが出来る時間を少しでもつくるということが大事です。普段は気が付かないけれど、そんな見方があるなあと気づかせて頂くことがとても大事なのです。今年も20名ほどの方が3席とも満席され、記念品をお受けになりました。

これは、法然上人の主著「選択本願念仏集」に述べられた言葉で、浄土のお教えの基本となるものである。心にひたすら阿弥陀仏の名を念じて、いつでも、どこでも、時間の长短を問わず、一念一念に思いをこめて申すのを、淨土に往生する正しく定められた行と名付けた。これは、阿弥陀仏の本願に適っているから。という意味である。「念」はよく見ると「今」の「心」と書く。仏教、すなわちお念佛の世界では、「今的心」が大事なのである。「今」の「心」を見つめ、そして整え申す「お念佛」。その思いにあるものは、法然上人は、中国の高僧である善導大師の『觀經疏』に説かれるこの一文との遭遇によって浄土宗を開宗されたと伝わっている。時間と場所を選ばず、どこでも申すことができるお念佛。それは紛れもない阿弥陀如来様の誓いなのである。静かに心を落ち着かせ、「南無阿弥陀仏」と唱えるとき、何か心が清々しい気持ちになるのはどうしてだろうか。それは、自分という存在を静かに見つめることができているからではないだろうか。自然、どんな心に整えていただきお念仏。感謝のお念仏である。



先代住職の頃に電気牧柵を施工しましたが、雑草が生えるとその効果を成しません。現住職も法事の合間や休みの日に、草払い機を持ち、雑草を刈っていますが、とても追いつく広さではありませんでした。

施工後、様子を見ていますが今のところ、イノシシが山から下りてきて墓地を荒らすことはないようです。

かなりの効果がありました。

残すは、墓地周辺の雑草対策です。何かいい方法はないものでしょうか。

## 源昌寺ホームページ

源昌寺では、平成25年よりホームページを作成しています。こちらも ぜひご覧ください。



**住職コラム**  
「一心に専ら阿弥陀の名号を念じて、  
行住坐臥に時節の久遠と問わず、念  
に捨てざるもの、これを正定の業  
に」